

阪神バス路線で西宮回生病院の無料送迎を代替

～尼崎モデル（あまドラモデル）の応用！共創ノウハウの確立へ～

■本取り組みの4つのキーワード

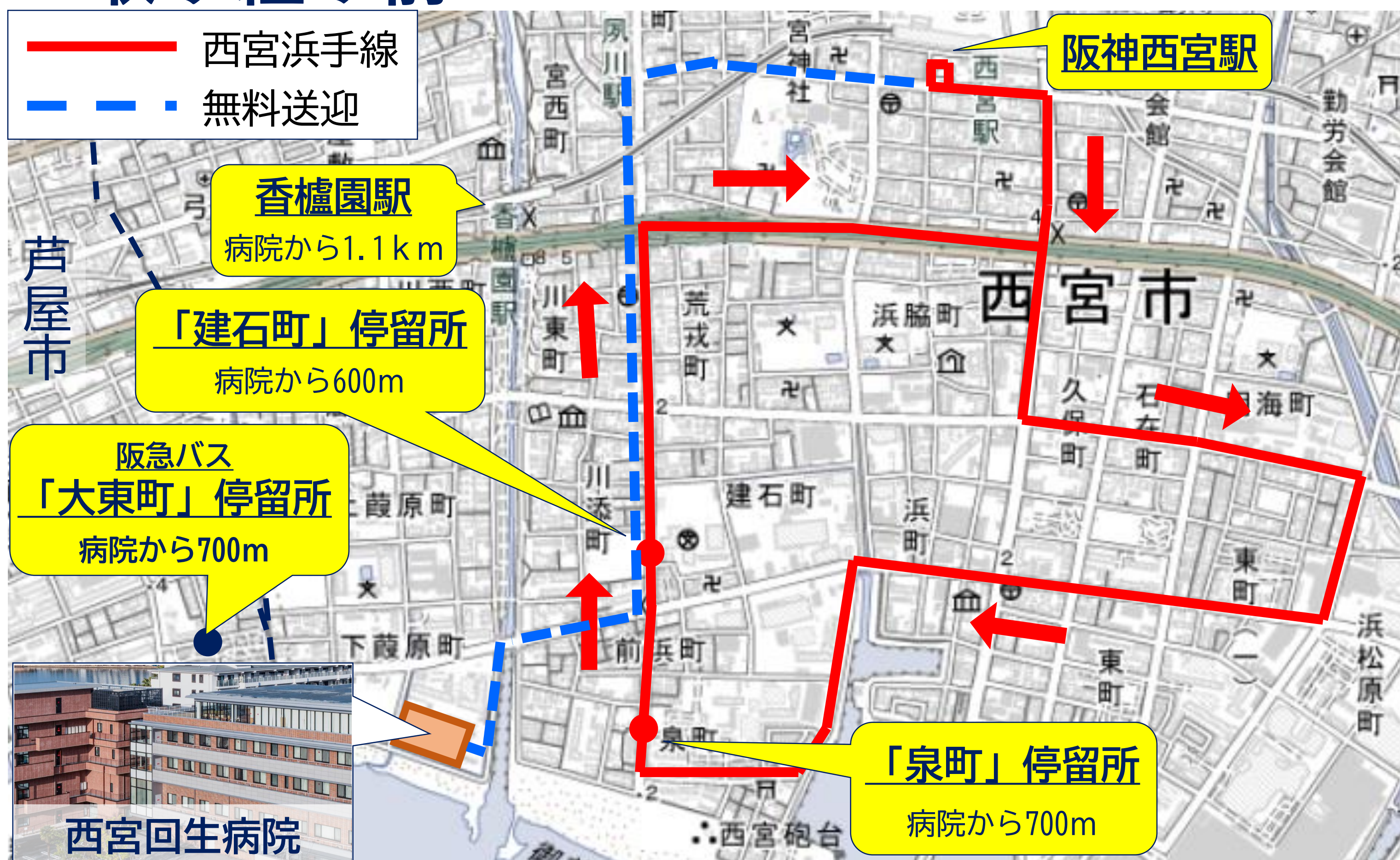
- ① 輸送資源の効率化
- ② 「公共交通不便地域」の解消
- ③ 運賃返金システムによる
“実質無料”での輸送サービス提供
- ④ “あまドラモデル”の水平展開



西宮回生病院（兵庫県西宮市）

Chapter 1 取り組みの背景

<取り組み前>



阪神バス



- ・2021年7月に尼崎ドライブスクール（あまドラ）の無料送迎を路線バスに代替した実績あり。
- ・一方で、深刻化する運転士不足等の影響を受けて、西宮浜手線の路線休止も含めて検討していた。

西宮回生病院



- ・阪神西宮（阪急夙川）方面に無料送迎を運行。
- ・一方で、運転士不足により持続可能な運行に懸念があった。

西宮市

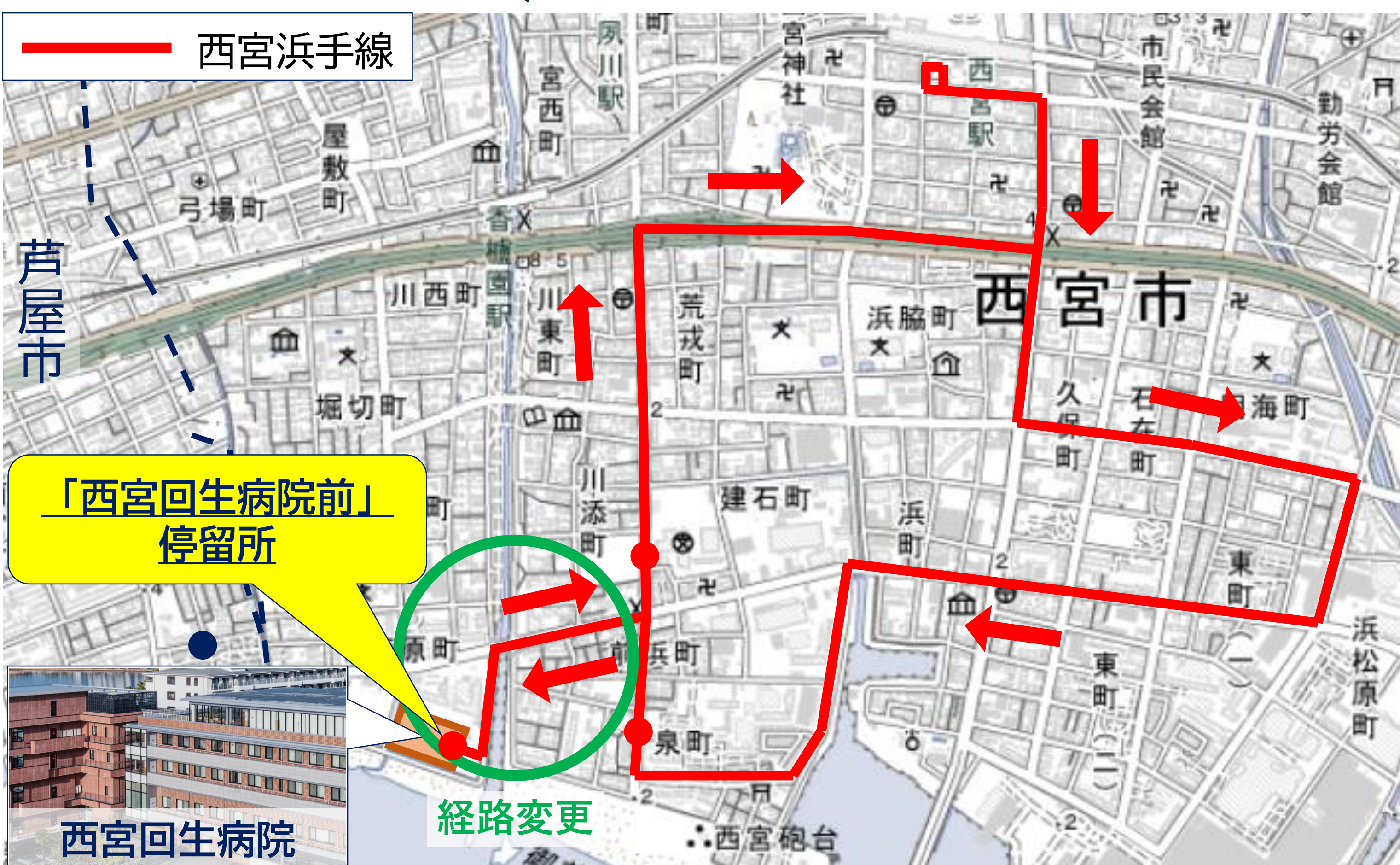


- ・芦屋市と隣接する浜手エリアは「公共交通不便地域」となっており、不便解消に向けた手段を模索していた。

⇒阪神バスがあまドラでの実績を踏まえ、他地域への展開先として西宮回生病院を西宮市に提案したところ、病院側もこれに賛同した。

Chapter 2 取り組みのねらい

<取り組み後（2024年2月23日実施 ダイヤ改正）>



阪神バス



- ・既存バス路線（西宮浜手線）の維持
- ・沿線住民の潜在需要喚起によるバスの利用機会創出
- ・病院からの固定収入確保

西宮回生病院



- ・無料送迎の運行費用削減および事故リスク回避
- ・運転士不足の解消

西宮市



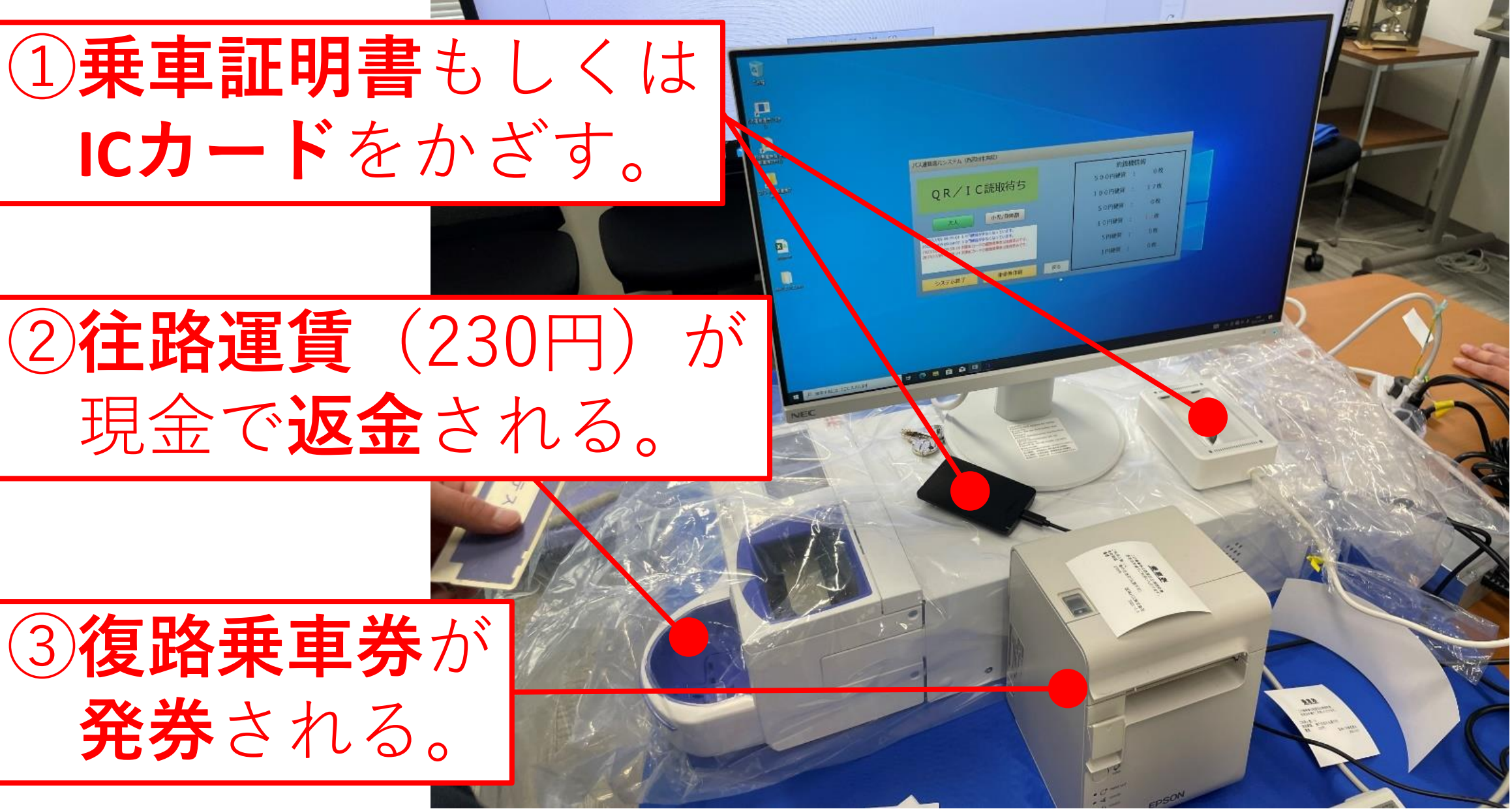
- ・公共交通不便地域（約7ha）の解消
- ・既存公共交通の維持

⇒さらに西宮回生病院内に運賃返金システム（※）を設置することで、病院利用者にとっても、実質無料運賃のまま乗り降り可能な停留所が増えるメリットが生まれた。 ※往路の運賃を返金し、復路の乗車券を発券するシステム

“四方よし”の実現

Chapter 3 運賃返金システム

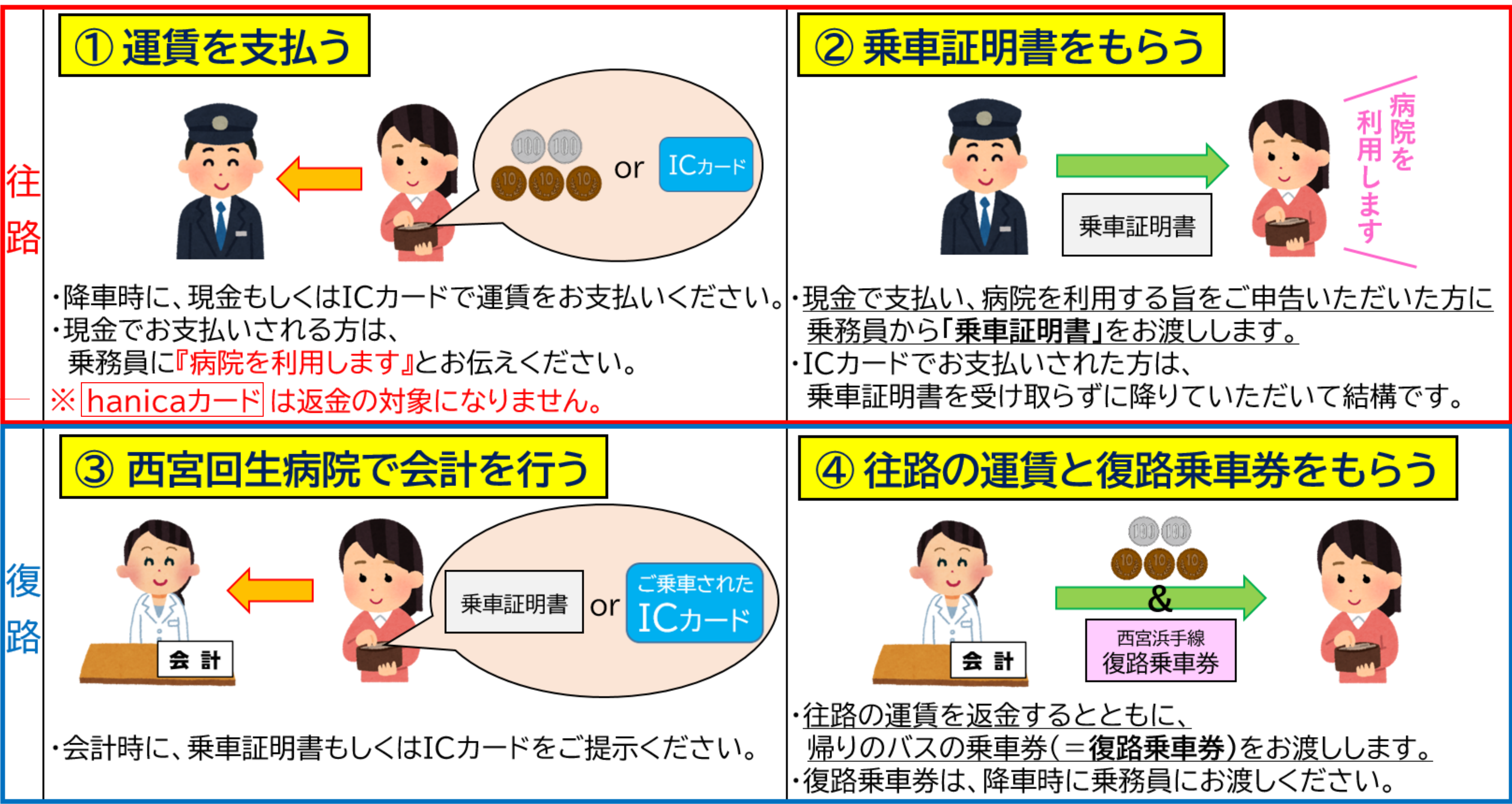
- 西宮回生病院に、**運賃返金システム**を設置し、病院利用者に“実質無料”の輸送サービスを提供。
- 運賃返金システムはあまドラでも導入実績があるが、**本取り組みでは、ICカードでの乗車にも対応できる**よう改良を行った。



①乗車証明書もしくはICカードをかざす。

②往路運賃（230円）が現金で返金される。

③復路乗車券が発券される。



→ 阪急阪神バス共通！ICカード

Chapter 4 「西宮回生病院前」停留所の新設

- バスの往来に必須となる『**転回空間の確保**』にあたっては、
- ・駐車スペースの区画変更工事
 - ・カーブミラーの新設
 - ・病院に繋がる市道の補修工事
- を実施し、安全運行に向けた環境を整備した。

⇒**阪神バス・西宮回生病院・西宮市が乗り入れに向けた明確なビジョンを共有していたことが、課題の円滑な解消に繋がった。**

○停留所の新設

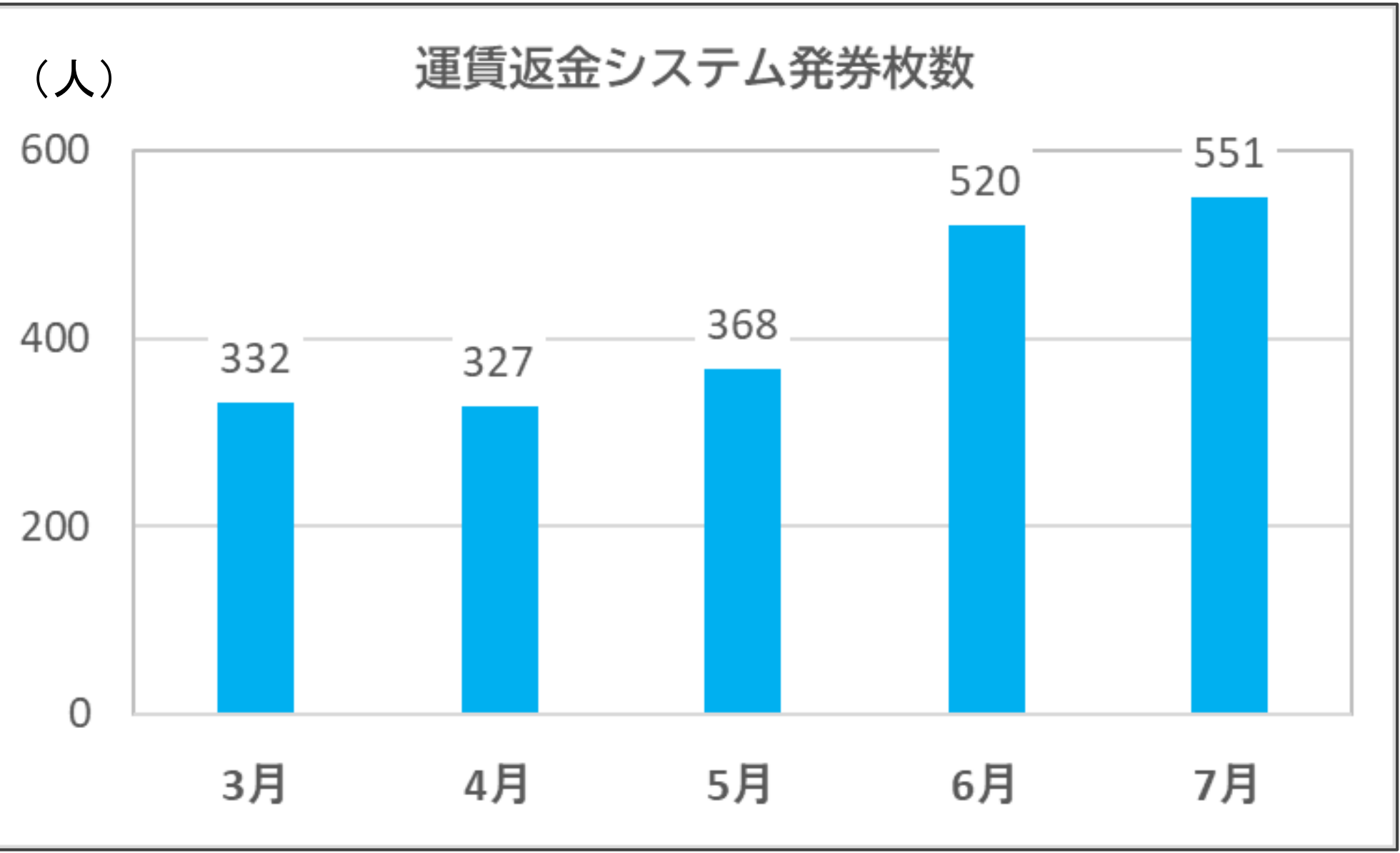
○バスの転回空間の確保

○利用促進

Chapter 5 取り組みの成果

■運賃返金システムの利用実績

- ・7月の利用実績は、**551名**であった。（復路乗車券の発券枚数に限る）



- ・運行開始から利用者を着実に増やしている。

■沿線住民の公共交通利用促進

- ・病院利用者に加えて、**近隣住民も“生活の足”**として利用しており、市民の行動変容に寄与することができた。

西宮回生病院への乗り入れ大変嬉しいです。

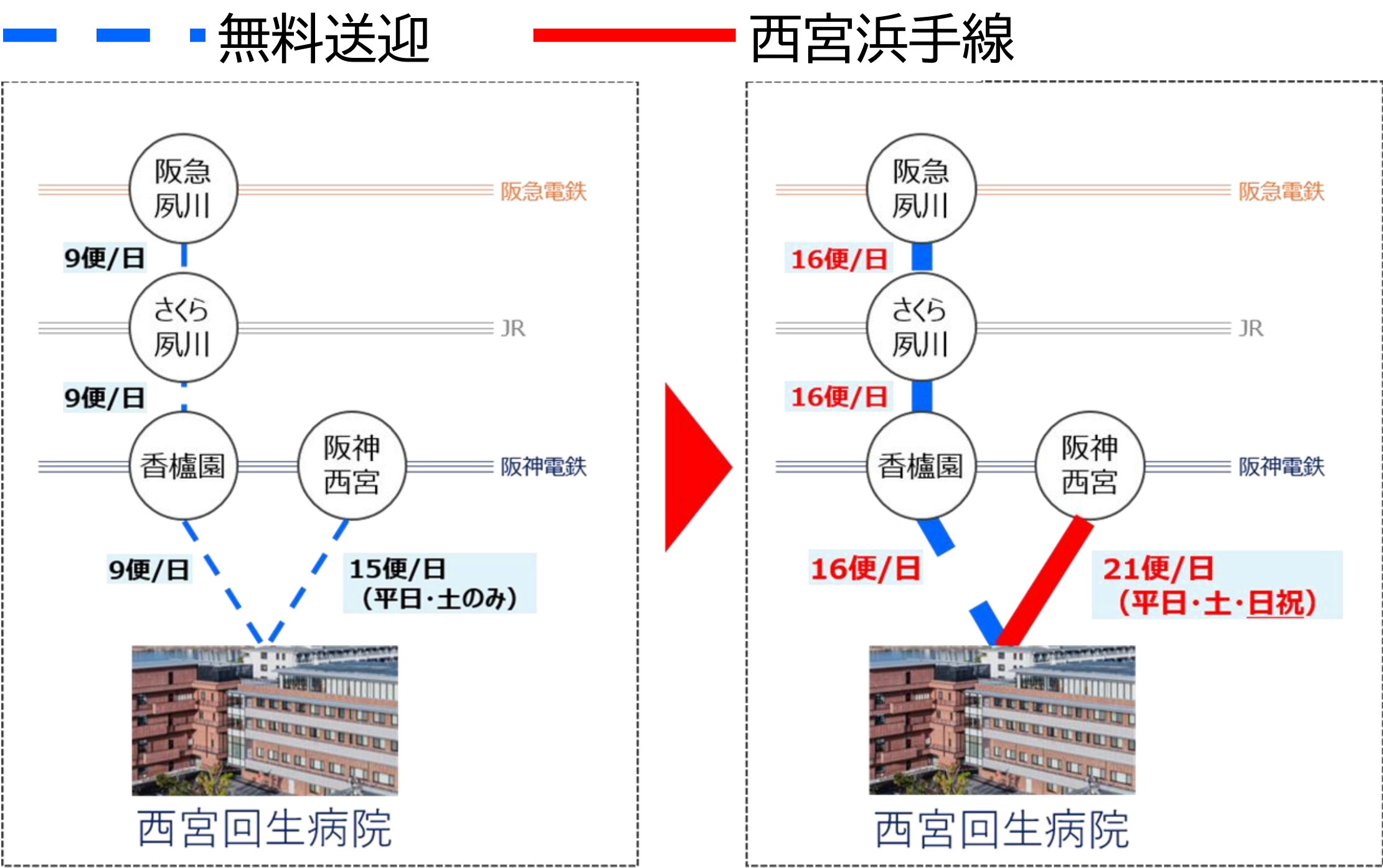
夫が心臓が悪く坂道を歩くのが負担がかかるため、駅へ行くのもバス停に行くのも坂道があり、お出かけの懸念となっていました。

今後バスを積極的に利用しようと思います。ありがとうございました！！

30歳女性より
阪神バスへのメールにて

■病院へのアクセス向上

- ・阪神西宮方面への無料送迎を代替し、かつ**無料送迎では運行のなかった日曜日・祝日における病院アクセスの向上**という付加価値を実現した。



Chapter 6 今後の展望

■他地域への水平展開・再現によるモビリティ・マネジメントの効果的な実施

本取り組みは、路線バス事業の持続性を向上させながら、関係者にメリットをもたらす“四方よし”のサービスであるとともに、各事業主体が運用面・財源面で負担にならない体制を構築している。

また本取り組みが解消を目指す課題は全国的な課題でもある。無料送迎を実施する主体は、塾やスイミングといった習い事や従業員輸送など多岐にわたることから、**本取り組みをパッケージ化し、他地域において水平展開する際のモデルケース**とすることで、モビリティ・マネジメントの効果的な実施に繋げる。

■共創に取り組むうえで必要となる要素

阪神バスの尼崎ドライブスクール（あまドラ）の事例でのノウハウを展開・進度化するとともに、各事業主体がビジョンを共有し、連携を密に取り組んだことで、“四方よし”の施策を実現した。

- 今回の事例から「共創」による効果を最大限発現させるために、
- ①関係者で近しいビジョンや今日的な課題を共有したうえで、
 - ②一方的な協力要請ではなく、自らが可能な協力を持ち寄り、
 - ③目的に向けて各自が主体的に動いていくことが、
- 課題の円滑な解消、持続可能な体制の構築に寄与すると考える。

競争相手を共創パートナーに